

社 会

1 編集の具体的方針

(1) 各学年の分冊

学年	巻	内容
3年	3-1	<p>社会科の学習を広げる タブレット型コンピューターを生かそう 生活科をふり返ろう 社会科で使う見方・考え方/他の教科などとのかかわり 社会科の学習の進め方</p> <p>1 わたしたちのまちと市</p> <p>1. まちの様子</p> <p>(1) 自分の家やよく行く場所はどこにあるの (2) 自分の家やよく行く場所をさがそう (3) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (4) 駅のまわりのコースをたんけん (5) 土地の高い所とひくい所コースをたんけん</p> <p>まとめる まちの様子をこうもくごとにまとめよう</p> <p>2. 市の様子</p> <p>(1) わたしたちの市はどこにあるの (2) 県や市の地図をながめて (3) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (4) 市役所へ行って調べよう (5) 市役所のまわり (6) 大きな駅のまわり (7) 海に面した所 (8) 緑の多い所 (9) 住む人がふえてきた所 (10) 古いたてもものがある所</p> <p>まとめる 市の様子をまとめよう もっと知りたい 地図記号ってなんだろう もっと知りたい まちの昔と今を地図でくらべる わくわく! 社会科ガイド</p>
	3-2	<p>2 はたらく人とわたしたちの暮らし</p> <p>1. 店ではたらく人と仕事</p> <p>(1) 買い物はどこで (2) 買い物調べでわかったこと (3) レシートからわかること (4) 学習の見通しを立てよう (5) スーパーマーケットの様子を調べよう (6) 店ではたらく人の様子 (7) 商品はどこから (8) 買い物で気をつけていることと店のくふう</p> <p>まとめる 店のくふうをまとめよう もっと知りたい よりよい買い物をするために</p>

		<p>2-1. 工場ではたらく人と仕事【せんたく】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) まちで人気のしゅうまい (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 工場をたずねて (4) はたらく人が気をつけていること (5) 工場ではたらく人たち (6) 製品はどこへ、原料はどこから <p>まとめる 地いきとともに歩むものづくり</p> <p>2-2. 農家の仕事【せんたく】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 地いきでつくられる野菜 (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 加藤さんの畑をたずねて (4) こまつなづくりのくふう (5) こまつなはどこへ <p>まとめる 地いきとつながる野菜づくり</p>
3-3	3	<p>3 地いきの安全を守る</p> <p>1. 火事からまちを守る</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 火事が起きたらどうなる (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 消防しょをたずねて (4) 消防しょとさまざまな人のはたらき (5) 消防しょの一日 (6) 学校の消防せつびを調べよう (7) 地いきの人々の協力 <p>まとめる 火事からまちを守るはたらき つなげる 自分やまちの安全を守るために、わたしたちにできること</p> <p>2. 事故や事件からまちを守る</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 事故が起きたら (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 交通事故のしより (4) けいさつの仕事 (5) 学校のまわりを調べよう (6) 地いきの人の協力 <p>まとめる 事故や事件からまちを守るはたらき つなげる</p>
3-4	4	<p>4 わたしたちの市の歩み</p> <p>1. かわる道具とくらし</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 昔の道具 (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 郷土資料館をたずねて (4) 昔のくらしをインタビューする (5) かわってきたくらし <p>まとめる 道具とくらしのうつりかわり</p> <p>2. 市のうつりかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) かわるまちの様子 (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 交通はどのようにかわったのかな

		<p>(4) 土地の使われ方はどのようにかわったのかな (5) 人口はどのようにかわったのかな (6) 公共施設はどのようにかわったのかな まとめる 年表を書き足そう つなげる 年表を見て話し合おう もっと知りたい うつりかわる地いき 3年生の学習をふり返ろう SDGsとつなげて考えよう</p>
4年	4-1	<p>社会科の学習を広げる タブレット型コンピューターを生かそう 前の学年をふり返ろう 社会科で使う見方・考え方/他の教科などのかかわり 社会科の学習の進め方 広げてみよう、市から県へ みりょくがいっぱい！ 知りたいな、47都道府県 1 県の地図を広げて (1) 県の地図を見てみよう (2) 県の土地の使われ方 (3) 農業や漁業がさかんな地域 (4) 工業がさかんな地域 (5) 県の交通の様子 まとめる 県の様子について調べたことを整理しよう</p>
	4-2	<p>2 健康なくらしとまちづくり 1. ごみはどこへ (1) 家のごみを調べて (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) ごみの収集の様子を調べよう (4) 清掃工場を見学しよう (5) もやしたごみの灰のゆくえ (6) 資源になるもののゆくえ まとめる ごみが処理されるまでを整理しよう (7) ごみの問題と向き合って (8) 地域の人々の取り組み まとめる ごみの問題について、地域の人と話し合おう つなげる 2-1. 水はどこから【せんたく】 (1) 1日に使う水の量を調べよう (2) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (3) 水はどこから流れてくるのか (4) 浄水場を見学しよう (5) 水道管を守る人々 (6) 水をたくわえる湖とダム (7) 水源を守る取り組み (8) 使ったあとの水のゆくえは まとめる 水の通り道をすごろくに表そう！ つなげる 水を大切に使うということは・・・ ごみと水について学んだことを、くらしに役立てよう 2-2. くらしと電気【せんたく】</p>

		<p>(1) 電気はどこから</p> <p>(2) どのようにして、電気をつくるの</p> <p>(3) くらしと電気のこれから</p> <p>2-3. ガスはどこから【せんたく】</p>
4-3	3	<p>自然災害にそなえるまちづくり</p> <p>1-1. 地震にそなえるまちづくり【せんたく】</p> <p>(1) 地震防災センターで調べよう</p> <p>(2) 家庭や学校でのそなえを調べよう</p> <p>(3) 市役所へ行って調べよう</p> <p>(4) 大切な情報</p> <p>(5) 住民の命やくらしを守るために</p> <p>(6) 地域にくらす人々のそなえを調べよう</p> <p>(7) 身の安全をたしかなものにしよう</p> <p>まとめる 地震や津波にそなえて つなげる</p> <p>1-2. 水害にそなえるまちづくり【せんたく】</p> <p>(1) 水につかったまち</p> <p>(2) 水防学習館で調べよう</p> <p>(3) 地域の住民の取り組み</p> <p>(4) 市役所へ行って調べよう</p> <p>(5) ひがいがくり返されないために</p> <p>まとめる 水害にそなえて つなげる</p> <p>1-3. 火山の噴火にそなえて【せんたく】</p> <p>1-4. 雪の災害にそなえて【せんたく】</p>
4-4	4	<p>地域で受けつがれてきたもの</p> <p>(1) 阿波おどり会館で調べよう</p> <p>(2) おどりにての人に話をきこう</p> <p>(3) 阿波おどりを受けつぐ、広げる</p> <p>まとめる 阿波おどりの発展を願って</p> <p>(4) 阿波人形浄瑠璃について調べよう</p> <p>(5) 阿波人形浄瑠璃と農村舞台を守るために</p> <p>まとめる 未来へ、受けつがれていくために つなげる わたしたちも伝えよう</p> <p>5-1 昔から今へと続くまちづくり【せんたく】</p> <p>(1) 米がほしいけれど</p> <p>(2) 見沼代用水と井沢弥惣兵衛－図書館で調べよう</p> <p>(3) どうやって水を引いた？－博物館で調べよう①</p> <p>(4) ふたてに分かれた用水路－博物館で調べよう②</p> <p>(5) どのようにして工事は行われた？</p> <p>(6) 調べてきたことを整理しよう</p> <p>(7) もっと知りたいな、井沢弥惣兵衛</p> <p>(8) そして、ゆたかな土地に</p> <p>(9) 未来に残そう、みんなの見沼</p> <p>まとめる 昔と今を年表や地図でつなげよう</p>

		<p>5-2 地域に学校をひらく【せんたく】</p> <p>5-3 地域の人々を病気から救う【せんたく】</p> <p>5-4 沖縄の文化のよさを伝える【せんたく】</p> <p>5-5 北海道で、いねを実らせる【せんたく】</p>
4-5	6	<p>わたしたちの県のまちづくり</p> <p>1. 焼き物を生かしたまちづくり</p> <p>(1) 焼き物づくりがさかんな東峰村</p> <p>(2) 小石原焼が広まったわけは</p> <p>(3) 小石原焼ができるまで</p> <p>(4) 小石原焼のよさを広めるために</p> <p>まとめる 東峰村の発展を願って</p> <p>もっと知りたい 箱根寄木細工のぎじゅつを受けつぐ人々</p> <p>もっと知りたい 「映像文化のまち」練馬区</p> <p>2-1. 昔のよさを未来に伝えるまちづくり【せんたく】</p> <p>(1) 昔のものが多く残る太宰府市</p> <p>(2) 昔からひらかれていた太宰府市</p> <p>(3) 昔のものが守られるまでには</p> <p>(4) 太宰府のよさを守るために</p> <p>(5) 未来に伝えたい太宰府のよさ</p> <p>まとめる 太宰府市の発展を願って</p> <p>2-2. 自然を生かしたまちづくり【せんたく】</p> <p>(1) 海と山にかこまれた岡垣町</p> <p>(2) アカウミガメを守る地域の人々</p> <p>(3) 自然のよさを生かしたびわづくり</p> <p>(4) 「海がめもかえるまち」のまちづくり</p> <p>まとめる 岡垣町の発展を願って</p> <p>もっと知りたい 人と人のつながりが広がる「アートの島」直島</p> <p>3. 国際交流がさかんなまちづくり</p> <p>(1) 多くのおとずれる福岡市</p> <p>(2) 二つのげんかん</p> <p>(3) アジアの中の福岡市</p> <p>(4) 交流を続けていくために</p> <p>まとめる 世界との交流の輪が広がることを願って</p> <p>自分たちの県を外国の人にしょうかいしよう</p> <p>4年生の学習をふり返ろう</p> <p>SDGs とつなげて考えよう</p>
5年	5-1	<p>社会科の学習を広げる タブレット型コンピュータを生かそう</p> <p>前の学年をふり返ろう</p> <p>社会科で使う見方・考え方／他の教科などとの関わり</p> <p>社会科の学習の進め方</p> <p>1 日本の国土とわたしたちの暮らし</p> <p>1. 世界の中の日本の国土</p> <p>(1) ワールドツアーへ！</p> <p>(2) 日本から世界へ、世界から日本へ</p> <p>(3) 日本の国土のすがた</p> <p>(4) 日本の国土はどこまで？</p>

	<p>まとめる</p> <p>2. 国土の気候と地形</p> <p>(1) 変化の大きい日本の自然</p> <p>(2) 気温と地形との関係</p> <p>(3) 日本のさまざまな気候</p> <p>まとめる</p> <p>SDGs とつなげて考えよう</p> <p>巻末資料</p>
5-2	<p>3. 自然条件と人々の暮らし</p> <p>(1) あたたかい地域と寒い地域、高地と低地</p> <p>(2-1) あたたかい気候と沖縄県の観光【せんたく】</p> <p>(3-1) あたたかい気候と沖縄県の農業・漁業【せんたく】</p> <p>(4-1) 暑さや台風と、沖縄県の人々の暮らし【せんたく】</p> <p>(5-1) 高地の自然条件と、野辺山原の農業【せんたく】</p> <p>(6-1) あれ地や寒さと、野辺山原の人々の暮らし【せんたく】</p> <p>まとめる</p> <p>(2-2) 寒い気候と北海道の観光【せんたく】</p> <p>(3-2) 寒い気候と北海道の農業・漁業【せんたく】</p> <p>(4-2) 寒さや雪と、北海道の人々の暮らし【せんたく】</p> <p>(5-2) 低地の自然条件と、佐原北部の農業【せんたく】</p> <p>(6-2) 水害と、佐原北部の人々の暮らし【せんたく】</p> <p>(7-2) 低地の自然条件と、佐原北部の観光【せんたく】</p> <p>もっと知りたい 自然とともに生きる人々の暮らし</p>
5-3	<p>2 未来を支える食料生産</p> <p>(1) 全国からとどく食料</p> <p>1. 米づくりのさかんな地域</p> <p>(1) 米はどこから？</p> <p>(2) 米の産地は、どんなところ？</p> <p>(3) 一年間の米づくり</p> <p>(4) 質の高い米をめざして</p> <p>(5) おいしい米をとどける</p> <p>(6) 米づくりの変化</p> <p>(7) 米づくりがかかえる課題</p> <p>(8) これからの米づくり</p> <p>まとめる</p>
5-4	<p>2-1. 水産業のさかんな地域【せんたく】</p> <p>(1) さまざまな水産物を求めて</p> <p>(2) 北海道・根室のさんま漁のくふう</p> <p>(3) 質の高い魚を、より多く</p> <p>(4) おいしい魚をとどける</p> <p>(5) 鹿児島県・長島のぶり養殖のくふう</p> <p>(6) 水産業の変化と課題</p> <p>(7) 持続可能な水産業をめざして</p> <p>まとめる</p> <p>もっと知りたい 森は海の恋人</p> <p>2-2. 野菜づくりのさかんな地域【せんたく】</p> <p>2-3. 岩手町のキャベツづくり【せんたく】</p>

		<p>2-4. 果物づくりのさかんな地域【せんたく】</p> <p>2-5. 肉牛飼育のさかんな地域【せんたく】</p> <p>3. これからの食料生産</p> <p>(1) 外国からもとどく食料</p> <p>(2) 食料の輸入がもたらすもの</p> <p>(3) 食料を安定して生産し、とどけるためにまとめる</p> <p>つなげる</p> <p>もっと知りたい 地域ならではの食料生産</p>
5-5	3	<p>未来をつくり出す工業生産</p> <p>(1) 工業製品とわたしたちの暮らし</p> <p>1-1. 自動車の生産にはげむ人々【せんたく】</p> <p>(1) 変わってきた自動車</p> <p>(2) 大量に、むだなく、一つずつ</p> <p>(3) 組み立て工場のくふう</p> <p>(4) 部品はどこから？</p> <p>(5) 完成した自動車をとどける人々</p> <p>(6) 新たな機能を生み出す人々</p> <p>まとめる</p> <p>1-2. 製鉄にたずさわる人々【せんたく】</p> <p>1-3. 石油の加工にたずさわる人々【せんたく】</p> <p>2. 日本の工業生産と貿易・運輸</p> <p>(1) 自動車は世界へ</p> <p>(2) 日本の主な輸出品と輸入品</p> <p>(3) 工業生産と貿易との関係</p> <p>(4) 貿易を支える輸送手段</p> <p>まとめる</p> <p>3. 日本の工業生産の今と未来</p> <p>(1) さまざまな製品をつくり出す工業</p> <p>(2) 工業のさかんな地域</p> <p>(3) 大工場と中小工場のちがい</p> <p>(4) 日本の工業生産の変化</p> <p>(5) 増え続ける海外生産</p> <p>(6) 国内で生産を続けていく中小工場～東大阪市の「ものづくり」～</p> <p>(7) これからの工業生産とわたしたちの暮らし</p> <p>まとめる</p> <p>つなげる</p> <p>もっと知りたい 工業や暮らしを支える資源・エネルギー</p>
5-6	4	<p>未来とつながる情報</p> <p>(1) 身のまわりの情報</p> <p>1-1. 情報を伝える人々とわたしたち【せんたく】</p> <p>(1) 情報はどこから？</p> <p>(2) 放送局がつくるニュース番組ができるまで</p> <p>(3) ニュースにかける思い</p> <p>(4) マスメディアとしての責任</p> <p>(5) メディアの変化と、放送局の取り組み</p>

		<p>まとめる</p> <p>1-2. 新聞社のはたらきとわたしたちの暮らし【せんたく】</p> <p>2-1. 暮らしと産業を変える情報通信技術【せんたく】</p> <p>(1) 暮らしの中に広がる情報通信技術（ICT）</p> <p>(2) 店で活用する情報通信技術</p> <p>(3) 大量の情報を生かそうとする人たち</p> <p>(4) 情報通信技術によって広がるサービス</p> <p>(5) これからの情報通信技術とわたしたちの暮らし</p> <p>まとめる</p> <p>つなげる</p> <p>2-2. 観光に生かす情報通信技術【せんたく】</p> <p>2-3. 健康な暮らしを支える情報通信技術【せんたく】</p> <p>2-4. 大量の情報を生かす運輸・流通のしくみ【せんたく】</p> <p>もっと知りたい 情報通信技術の可能性</p>
5-7	5	<p>国土の自然とともに生きる</p> <p>(1) 国土の自然がもたらすもの</p> <p>1. 自然災害とともに生きる</p> <p>(1) 自然災害と国土の自然条件</p> <p>(2) くり返す自然災害</p> <p>(3) 大津波から暮らしを守るために</p> <p>(4) さまざまな自然災害から暮らしを守るために</p> <p>まとめる</p> <p>2. 森林とともに生きる</p> <p>(1) 日本の国土と森林</p> <p>(2) 森林のはたらきと人々の暮らし</p> <p>(3) 木を植えて育てる人々</p> <p>(4) 森林を守り続けるための新しい取り組み</p> <p>(5) 森林を守るためにできることは</p> <p>まとめる</p> <p>つなげる</p> <p>3. 環境をともに守る</p> <p>(1) 青い空と海を取りもどしたまち</p> <p>(2) 公害をなくすために</p> <p>(3) 環境首都をめざして</p> <p>(4) きれいな環境を、次の世代のために</p> <p>まとめる</p> <p>つなげる</p> <p>もっと知りたい 日本にある世界遺産</p> <p>5年生の学習をふり返ろう</p>
6年	6-1	<p>社会科の学習を広げる タブレット型コンピューターを生かそう</p> <p>前の学年をふり返ろう</p> <p>社会科で使う見方・考え方／他の教科などとの関わり</p> <p>社会科の学習の進め方</p> <p>1 ともに生きる暮らしと政治</p> <p>(1) オリンピック・パラリンピックから学び、社会を考える</p> <p>1. 憲法とわたしたちの暮らし</p> <p>(1) だれもが使いやすいまちに</p>

		<ul style="list-style-type: none"> (2) 国のあり方を示す日本国憲法 (3) 学習問題をつくり、調べる計画を立てよう (4) 国の主人公はわたしたち国民 (5) すべての人が幸せに生きるために (6) 平和を守る (7) 国会のはたらき (8) 内閣のはたらき (9) 裁判所のはたらき (10) 税金のはたらき <p>まとめる</p>
6-2	<p>2-1. わたしたちの暮らしを支える政治【せんたく】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) わたしたちの暮らしと社会の課題 (2) 人々の暮らしの願い (3) 子どもは未来への希望 (4) 「子育て支援ひろば」ができるまで (5) たがいに助け合う社会 (6) 社会の課題の解決とわたしたち <p>まとめる つなげる わたしたちの暮らしにつながる政治について考えよう</p> <p>2-2. 災害からわたしたちを守る政治【せんたく】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 突然の大地震と津波 (2) 緊急の支援 (3) 復興に向けて動き出す (4) 命を守るまちづくり <p>2-3. 雪とともに生きる暮らしを支える政治【せんたく】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) まちで暮らす人々の願い (2) 雪対策で暮らしが変わった (3) 雪を生かす <p>もっと知りたい 政治のはたらきをまちの中から探して考えよう SDGs とつなげて考えよう</p>	
6-3	<p>2 日本の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人々の願いの今と昔 1 (2) 人々の願いの今と昔 2 <p>歴史の学び方をナビゲーション! 歴史年表（縄文時代～古墳時代） 日本列島歴史の旅に出かけよう</p> <p>1. 国づくりへの歩み</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大昔の暮らしをさぐる 1 (2) 大昔の暮らしをさぐる 2 (3) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう (4) 米づくりが始まる (5) むらからくにへ (6) 古墳をつくった人々 (7) 古墳の広がりとお和朝廷 <p>もっと知りたい 世界との関わり</p>	

		まとめる
6-4	<ul style="list-style-type: none"> 2. 大陸に学んだ国づくり <ul style="list-style-type: none"> (1) 大陸にわたった人々 (2) 聖徳太子の理想 (3) 大化の改新と新しい政治のしくみ (4) 聖武天皇と大仏づくり (5) 海をこえた人やもの (6) 藤原道長と貴族の暮らし (7) 日本独自の文化が生まれる 	まとめる もっと知りたい 世界との関わり
	<ul style="list-style-type: none"> 3. 武士の政治が始まる <ul style="list-style-type: none"> (1) 武士が現れる (2) 源氏と平氏が戦う (3) 幕府を開いた源頼朝 (4) 元との戦い 	まとめる もっと知りたい 文化財の継承を考えよう
	<ul style="list-style-type: none"> 4. 室町文化と力をつける人々 <ul style="list-style-type: none"> (1) 室町時代に生まれた文化 (2) 簡素で静かな美しさ (3) 今も受けつがれる室町文化 (4) 産業の発達と力をつける人々 	まとめる
	歴史年表（飛鳥～室町時代）	
6-5	<ul style="list-style-type: none"> 5. 全国統一への動き <ul style="list-style-type: none"> (1) 戦国の世の中 1 (2) 戦国の世の中 2 (3) 全国統一を目指した織田信長 (4) 全国を統一した豊臣秀吉 (5) 江戸幕府を開いた徳川家康 	まとめる もっと知りたい 世界との関わり
	<ul style="list-style-type: none"> 6. 幕府の政治と人々の暮らし <ul style="list-style-type: none"> (1) 江戸をみざす行列 (2) 江戸幕府と大名 (3) 人々の暮らしと身分 (4) 鎖国への道 (5) 鎖国のもとでの交流 	まとめる もっと知りたい 世界との関わり
	<ul style="list-style-type: none"> 7. 新しい文化と学問 <ul style="list-style-type: none"> (1) 都市のにぎわいと人々の楽しみ (2) 活気あふれる町人の文化 (3) 今につながる江戸の文化 	

	<p>(4) 文化を支えた産業と交通 (5) 新しい学問 (6) 人々と学問、新しい時代への動き</p> <p>まとめる もっと知りたい 持続可能な社会を歴史から考えよう もっと知りたい 世の中の課題と政治のはたらきを歴史から考える</p> <p>歴史年表（戦国～江戸時代）</p>
6 - 6	<p>8. 明治の新しい国づくり (1) 新しい世の中へ (2) 黒船が来た (3) 江戸幕府がたおれる (4) 新政府による国づくりの始まり (5) 欧米の国々に追いつけ (6) 人々の暮らしが変わった</p> <p>まとめる もっと知りたい 世界との関わり</p> <p>9. 近代国家を旨として (1) ノルマントン号事件と条約改正 (2) 学習問題をつくり、調べる計画を立てよう (3) 自由民権運動が広まる (4) 国会が開かれる (5) 日清・日露の戦い (6) 日露戦争後の日本と世界 (7) 産業の発展と世界で活躍する人々 (8) 暮らしと社会の変化</p> <p>まとめる もっと知りたい 災害の歴史から考えよう もっと知りたい 視点を変えて考えよう</p> <p>歴史年表（江戸末～大正時代）</p>
6 - 7	<p>10. 戦争と人々の暮らし (1) 戦火に焼けた日本 (2) 中国との戦争が始まる (3) アジア・太平洋に広がる戦争 (4) 戦争と人々の暮らし (5) 子どもたちと戦争 (6) おそいかかる空襲 (7) 沖縄・広島・長崎、そして敗戦</p> <p>まとめる もっと知りたい 戦争の時代を知ろう</p> <p>11. 平和で豊かな暮らしを旨として (1) 焼けあとかからの出発 (2) もう戦争はしない (3) 日本の独立と国際社会への復帰 (4) 東京オリンピック・パラリンピックが開かれる (5) 産業の発展と国民生活の変化 (6) これからの日本とわたしたち</p> <p>まとめる</p>

	<p>もっと知りたい 世界との関わり もっと知りたい 持続可能な社会を歴史から考えよう つなげる 歴史を学ぶ意味を考え、未来につなげよう 歴史年表（大正～）</p>
6 - 8	<p>3 世界の中の日本 (1) 日本と世界</p> <p>1. 日本とつながりの深い国々</p> <p>(1) 日本とつながりのある国 (2) 暮らしに深いつながりのある国 アメリカ 1 (3) 暮らしに深いつながりのある国 アメリカ 2 (4) 暮らしに深いつながりのある国 アメリカ 3 (5) 経済でつながりの深い国 中国 1 (6) 経済でつながりの深い国 中国 2 (7) 経済でつながりの深い国 中国 2 (8) 日系人が多く住む国 ブラジル 1 (9) 日系人が多く住む国 ブラジル 2 (10) 日系人が多く住む国 ブラジル 3 (11) 豊かな石油資源をもつ国 サウジアラビア 1 (12) 豊かな石油資源をもつ国 サウジアラビア 2 (13) 豊かな石油資源をもつ国 サウジアラビア 3</p> <p>まとめる (14) 国際交流について考えよう もっと知りたい おとなりの国 韓国</p> <p>2. 地球規模の課題の解決と国際協力</p> <p>(1) 世界で活躍する日本人 1 (2) 世界で活躍する日本人 2 (3) ユニセフのはたらき (4) 国際連合のはたらき (5) 地球の環境とともに生きる (6) よりよい社会をともにひらく</p> <p>まとめる つなげる 世界の人々とともに生きていくために、大切なことを考えよう</p> <p>平和への誓い 6年生の学習をふり返ろう</p>

(2) 各分冊の構成と順序

①各分冊の構成と順序は原則として次のとおりとする。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・表紙 ・目次 ・学びのてびきの目次（*各巻に掲載しているものの目次） ・「この教科書に登場するキャラクター」（*1巻のみ） ・本文等 ・奥付 |
|--|

②各分冊の目次には、その分冊に掲載する大単元名・中単元名・小単元名を記す。ま

た、各学年の第1巻の目次には、他の分冊の巻数とそれぞれに掲載する大単元名および中単元名を記す。原典教科書で、中単元や小単元のうち【せんたく】になっているものには、検索性の観点から必要に応じて連番を付けている。

- ③学びのてびきの目次には、その分冊に掲載するものを記す。また、各学年の第1巻には、他の分冊の巻数とそれぞれに掲載する学びのてびきのタイトルを記す。
- ④「この教科書に登場するキャラクター」には、各学年の教科書に登場するキャラクターを列記する。（＊1巻のみ）
- ⑤本文等には、本文の他、この時間の問い・キーワード・資料等を順に掲載する。具体的には後述の「(3) レイアウト」参照。ただし、学習の流れを考慮し、原典教科書の資料の順序を変更する場合がある。
- ⑥奥付には、点字および墨字の原典教科書に関する情報を掲載する。
- ⑦3・4年生の「この教科書に出てくる主な都道府県」、「キーワードの一覧」、5・6年生の「さくいん」は掲載しない。
- ⑧6-4～6-7には、6-3の年表のうち、その巻の該当部分のみ掲載する。
- ⑨2次元コード及び「まなびリンクを利用する」は削除する。ただし、必要に応じて、指導者が補足・紹介等を行う。

(3) レイアウト

全学年を通じ、原則としてレイアウトは次のとおりとする。

- ①大単元の題名を9マス目から記す。番号の後2マスあける。番号には記号を付さない。
- ②中単元の題名を7マス目から記す。番号は1. 2. …のようにピリオドをつける。
- ③小単元の題名を5マス目から記す。原典教科書では番号が付されていないが、検索性を高めるため(1)(2)…のように第1カッコで数字を括って番号を付す。
- ④小単元は、原則として、小単元名、「この時間の問」（つかむ・しらべる）、「活動」、「本文と吹き出し」、「ノート」、「キーワード（6年生は「人物」を含めて）」、「解説」、「赤○」、「やってみよう」、「資料」、「次につなげよう」の順に配置する。「学びのてびき」、「みんなで作った学習問題」は小単元の流れに合わせて配置する。
- ⑤本文の前後は1行あける。
- ⑥本文中の会話部分及び吹き出しの箇所については、まとまりごとに前後を1行あける。3マス目から会話者の名前を記し、その後2マスあけて発言内容を第1カギで囲む。
- ⑦「ノート」（「黒板」、「タブレット」も含めて）、「調べること」、「調べ方」、「まとめ方」は、波線枠で囲んで記す。
- ⑧「この時間の問」、「活動」、「キーワード」、「解説」、「やってみよう」、「次につなげよう」、「みんなで作った学習問題」は、5マス目から書き、次の行の3マス目からその内容を記す。前後を1行あける。
- ⑨「赤○」（6年生の資料記号のあるもの以外）は、点線枠で囲んで記す。

- ⑩「学びのてびき」は、改ページしてから二重線枠で囲んで記す。その際、上枠の5マス目から「学びのてびき」と書き、改行して7マス目からタイトルを書く。
- ⑪原典教科書の参照ページを示す記述は原則として削除する。
- ⑫「・〇〇〇」等の箇条書きについては、「1. 〇〇〇、2. 〇〇〇、3. 〇〇〇、…」のようにピリオドを付けて番号を付す。下位項目がある場合は「ア. 〇〇〇、イ. 〇〇〇、ウ. 〇〇〇、…」とする。さらに下位項目がある場合は「(ア) 〇〇〇、(イ) 〇〇〇、(ウ) 〇〇〇、…」とする。
- ⑬記号のついた資料(表、グラフ、地図、写真、絵等)は一重線の枠で囲み前後を1行あける。上枠の線の5マス目から「ア. 写真」などのように資料記号と資料の種類を記す。資料記号の後は1マスあけとする。資料のタイトルがある場合は次の行の7マス目から記す。ただし、写真や絵の場合は3マス目からとする。資料として写真が連続する場合、「ア. ・イ. 写真」、「ア. ～ウ. 写真」のように、一つの枠にまとめて掲載することがある。一つの資料番号に対して複数の図表や写真がある場合、(ア)・(イ)・(ウ)のように記号を付して記す。
- ⑭「まとめる」「もっと知りたい」「つなげる」は、改ページしてから二重線枠で囲んで記す。その際、上枠の5マス目から「まとめる」「もっと知りたい」「つなげる」と書き、改行して7マス目からタイトルを書く。
- ⑮「まとめる」の構成と順序について、学年ごとに統一する。
- ⑯本文中の太字は明示しない。
- ⑰小単元の終わりに終止線(②の点)を入れる。
- ⑱目次、「この教科書に登場するキャラクター」、「社会科の学習を広げる」、「前の学年(生活科)を振り返ろう」、「社会科の学習の進め方」、「社会科の見方や考え方/他の教科とのかかわり」、中単元、巻末資料、奥付等の終わりには、終止線(②⑤の点)を入れる。
- ⑲原典教科書の該当ページの番号は、点字教科書のページ行に「メの字」で挟んで左側に記す。その際、原則として小單元ごとの見開きページの番号を記す。
- ⑳原典教科書で記されている「選択・判断」は原則として削除する。必要に応じて指導者による補足を行う。

(4) 位置を示したり「見る」ことを指示したりする表現

- ①「上(下)の～」や「右(左)の～」という原典教科書の紙面上での位置を示す表現は、「〇〇ページの～」または「次の～」などのように点字教科書中の位置に合わせた表現に変更する。
- ②原典教科書において位置を示す表現がない場合でも、点字教科書中で図やグラフ等の参照ページを書き加えることが効果的な場合は本文に追加する。
- ③「見てみよう」等の表現は、実際にできない活動であるため、表現を変更している。

(5) 写真の取り扱い

- ①原典教科書にある写真については削除し、タイトルのみ掲載することを原則とする。

写真の説明文がある場合は、小見出し符（⑥・③⑥の点）の後に記す。

- ②写真のタイトルや説明文を可能な限り生かして点字化する。ただし、原典教科書の表現では不足する視覚的情報等を補うために、適宜表現を変更することがある。
- ③写真の説明文が原典教科書にない場合、必要に応じて新たな説明文を追加することがある。
- ④写真が複数ある場合は、「(ア) ○○○、(イ) ○○○、(ウ) ○○○、…」のように記号を付す。
- ⑤原典教科書の表紙等にある写真については削除する。

(6) 絵の取り扱い

- ①原典教科書にある絵については削除し、タイトルのみ掲載することを原則とする。
ただし、単元の学習を進める上で参考になるものについては、絵のタイトルを記し、小見出し符（⑥・③⑥の点）の後に絵の説明文を記す。
- ②絵のタイトルや説明文を可能な限り生かして点字化する。ただし、原典教科書の表現では不足する視覚的情報等を補うために、必要に応じて表現を変更することがある。
- ③絵の説明文が原典教科書にない場合、必要に応じて新たな説明文を追加することがある。
- ④絵が複数ある場合は、「(ア) ○○○、(イ) ○○○、(ウ) ○○○、…」のように記号を付す。

(7) グラフの取り扱い

- ①原典教科書にあるグラフについては、「点図化」、「数表化」、「数表と点図の併記」を行うか、削除する。
- ②点図にするかどうかの判断は、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、全体的な点図の枚数等を総合的に考慮して行う。ただし、原則として、円グラフ・帯グラフは数表化する。
- ③原則としてグラフの説明や凡例を先に記し、次にグラフを示す。グラフの説明や凡例のみを枠囲みする。
- ④グラフの説明や凡例を左ページに、グラフを右ページに配置し、できるだけ見開きとなるようにする。
- ⑤紙面の限界から、ページを縦長ではなく横長にしてグラフを掲載することがある。
その場合、ページの左上に（横書き）と記す。また、左右2ページに見開きで示すこともある。その場合、左ページの左上に（見開き）と記す。
- ⑥棒グラフでは、原典教科書では縦棒になっているものを点図では横棒にするなどの変更を行う場合がある。
- ⑦棒グラフにおいて、各年や月を示す数字が一定の規則で連続する場合、紙面の限界から一部の数字を省略することがある。
- ⑧グラフ中の項目名はできるだけ省略しないことを原則とする。省略する場合は連想

しやすい表記とし、正式な名称を凡例で示す。

- ⑨グラフの数値の読み取りを容易にするための目盛り線を凹点で表す。
- ⑩グラフを数表化する場合、枠囲みに記す資料の種類を表に変更し、表（グラフ）のように原典教科書の資料の種類をカッコ内に記す。同様に、数表と点図の併記にする場合、枠囲みに示す属性を表・グラフ（グラフ）のようにする。

(8) 地図の取り扱い

- ①原典教科書にある地図は、「点図またはサーモフォームによる触図化」、「数表化」、「数表と文章の併記」、「文章化」の処理を行うか、削除する。
- ②触図にするかどうかの判断は、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、全体的な触図の枚数等を総合的に考慮して行う。
- ③触図は原則として点図とするが、地形の高低差を表す必要がある場合は、サーモフォームによる触図化を行う場合がある。
- ④原則として図の説明や凡例を先に記述し、次に地図を示す。図の説明や凡例のみを枠囲みする。
- ⑤図の説明と地図ができるだけ見開きとなるようにする。
- ⑥紙面の限界から、ページを縦長ではなく横長にして地図を掲載することがある。その場合、ページの左上に（横書き）と記す。また、左右2ページに見開きで示すこともある。その場合、左ページの左上に（見開き）と記す。
- ⑦地図の範囲を表すため原則として各地図に枠を付ける。
- ⑧地図中の地名等はできるだけ省略しないことを原則とする。省略する場合は連想しやすい表記とし、正式な名称を凡例で示す。
- ⑨陸地と海の区別を容易にするため、地図中の海を原則として凹点で表す。また、触察上の配慮から原典教科書に記載のない海の名称を補うことがある。
- ⑩地図中の縮尺表示は、地図の意図する位置関係に主眼を置くため省略する。
- ⑪触図化する際の技術的な限界や、触覚による理解の困難さを考慮し、図の簡略化やデフォルメを行う。
- ⑫原典教科書の地図を点図等にする際、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、学習内容の焦点化、全体的な点図の枚数等を総合的に判断した結果、島々を省略した箇所がある。備考欄にその旨を記載してあるので、指導に当たっては備考欄を参照して口頭で補足するなどの配慮をする。

(9) 図の取り扱い

- ①原典教科書にある図は、「点図化」、「数表化」、「文章化」の処理を行うか、削除する。
- ②点図にするかどうかの判断は、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、全体的な点図の枚数等を総合的に考慮して行う。
- ③点図の説明や凡例がある場合は、原則として先に説明や凡例を記述し、次に点図を示す。図の説明や凡例のみを枠囲みする。簡易な図の場合は、説明や凡例がないこ

ともある。

- ④説明と点図ができるだけ見開きとなるようにする。
- ⑤紙面の限界から、ページを縦長ではなく横長にして点図を掲載することがある。その場合、ページの左上に（横書き）と記す。また、左右2ページに見開きで示すこともある。その場合、左ページの左上に（見開き）と記す。
- ⑥点図の範囲を表す枠線を必要に応じて付ける。
- ⑦点図中の名称等はできるだけ省略しないことを原則とする。省略する場合は連想しやすい表記とし、正式な名称を凡例で示す。
- ⑧点図化する際の技術的な限界や、触覚的理解の困難さを考慮し、図の簡略化やデフォルメを行う。

(10) 年表の取扱い

- ①6年生の歴史年表の「世紀と時代」については、左ページ・右ページ・右ページの折り込みの3ページ分を使って、各ページに左から「世紀」、「時代」、「中国」の三つの欄を設け、ページをめくることなく触れるように示している。
- ②6年生の歴史年表では、日本の主な出来事を左ページ、世界の主な出来事を右ページとして、見開きで示している。また、日本の時代区分を②・⑤の線で示し、線上の5マス目から時代名を記している。各年号は行頭から記している。「政治や産業」、「外国との関係」、「人々の様子」、「教科書に出てくる主な人物」は、「政治」、「外国」、「人々」、「人物」と略し、年号の次の行の3マス目から小見出し符を付して記している。2行目以降の書き出し位置は5マス目である。
- ③②以外の年表では、原則として、「年」、「出来事」と書いた行に続き、年号を行の左端に書き、2マス空けてその年号の出来事を記している。出来事が複数行になる場合、2行目以降の書き出し位置は1行目から2マス後ろにしている。

(11) 「学びのてびき」の取扱い

「学びのてびき」は、①原典教科書に即して点字化したもの、②視覚障害に配慮して一部変更したもの、③視覚障害がある場合には内容の理解が困難であるため削除したものまたは紹介にとどめたものがある。（「学びのてびき」の各項目参照）

(12) コンピュータ等の情報機器の活用

タブレット型コンピュータ等情報機器の活用については、視覚に障害のある児童の発達段階を考慮し、指導者が必要に応じて取り入れるようにする。ただし、児童が実感できる活動となるよう配慮する。なお、限られた指導時間の中では、活動を精選し、情報機器活用の意義を理解できることを目指す。

(13) 「2. 編集の具体的内容」の備考欄における記載事項

- ①触覚による把握：触覚によって理解することが可能なグラフ、地図、図について、点図やサーモフォームによる図を掲載する。

- ②理解のしやすさ：点図化が困難なため削除した写真、絵、図、グラフについて、児童の理解を促すため文章化や数表化して掲載する。
- ③指導者による補足：写真、絵、図、グラフを削除した場合は、指導者による補足説明を授業の中で行うことが望ましい。

なお、点字表記などの指導における配慮事項については、文部科学省発行「点字学習指導の手引（令和5年改訂版）」第7章 図形触読の学習（199 ページ～234 ページ）、第8章第2節 社会科における配慮事項（250 ページ～255 ページ）も合わせて参照いただきたい。

※「点字学習指導の手引（令和5年改訂版）」文部科学省ホームページ

